



特集 南湖公園国史跡名勝指定100周年 — 先人から受け継いだ財産を次世代につなぐ —

南湖の保存と活用

築造から約220年、南湖公園は、いつでも誰でも楽しむことのできる場所として、今も多くの人々に親しまれています。

その環境や景観を保存していくため、松くい虫航空防除や池干し、水草駆除、外来生物の調査のほか、園路整備、道路の一部通行止め、ハンパ（減速を促す路面の突起）の設置など、さまざまな取り組みを行っています。また、南湖を会場としたイベントを開催するなど、その魅力を発信しています。

次世代につなぐ

令和5年10月、都市計画課内に南湖係を新設しました。南湖を次世代につないでいくため、これまでの取り組みに加え、南湖の将来像を示す基本構想の策定や、人と車の安全な往来を確保するための社会実験、新たなイベントの開催などを実施していきます。

南湖公園に出かけよう

南湖は周囲約2km、飲食店もあり、気軽に散歩やジョギングが楽しめます。また、季節や時間帯により、さまざまな風景や自然の姿が見られます。翠楽苑では、友好都市の埼玉県行田市から贈られた古代蓮が7月に見頃を迎え、早朝無料開園が行われます（詳しくは20ページ）。この機会に南湖公園に出かけてみませんか？

南湖築造の理念と目的

南湖は、享和元年（1801）に白河藩主・松平定信により築造されました。江戸時代に大名が造った庭園は、城内や大名屋敷内にあり、通常、庶民は立ち入ることができませんでした。しかし、南湖は、身分を問わず誰もが楽しめる「士民共楽」の理念により囲いや塀を設けず、いつでも誰でも訪れることができました。

南湖築造には、困窮した領民の雇用の創出や新田への農業用水の供給、藩士の水泳や操船の訓練での使用など、さまざまな目的がありました。江戸時代の様子は『奥州白河南湖真景図』に見ることができます。

南湖公園開設 そして国の史跡名勝へ

明治時代になると、日本に公園制度が発足し、南湖は明治13年（1880）に「南湖公園」となりました。大正13年（1924）12月、定信の南湖築造の理念や、優れた景勝地であることが評価され、南湖公園は国の史跡名勝に指定されました。今年はそのから100年の節目の年にあたります。



▲翠楽苑



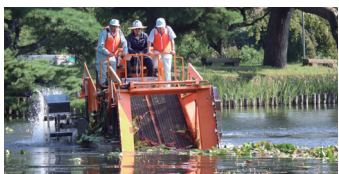
▲古代蓮



▲園路整備



▲池干し



▲水草駆除



▲ハンパの設置

南湖公園と渋沢栄一



▲渋沢栄一
(南湖神社蔵)

7月3日(水)に発行される新一万円札には「近代日本経済の父」と呼ばれる渋沢栄一の肖像が描かれていますが、南湖公園とも深い縁があります。

松平定信をまつる神社を創建するため「榮翁公奉祀表徳会」が結成されると、定信を敬愛する渋沢は、多額の寄附を行ったほか、財界の有力者に寄附を働きかけるなど南湖神社創建に尽力しました。また、南湖神社標柱の揮毫も行っています。

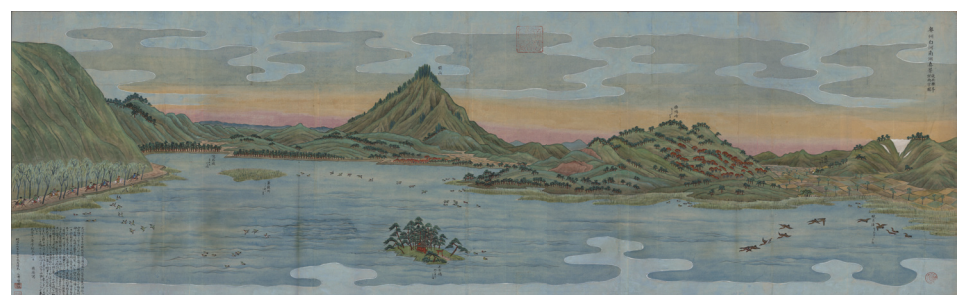


南湖と鉄道

大正5年（1916）に白河と棚倉を結ぶ白棚鉄道が開業しました。南湖公園のすぐ南側に線路が敷かれ、南湖駅が開設されました。昭和19年（1944）には、軍需優先のため運休となり、レールなどは撤去されました。



▲戦前の絵はがきより



▲奥州白河南湖真景図北面図/上段、南面図/下段（国立国会図書館蔵）

南湖への想いを伺いました



水月 竹内 由美子さん

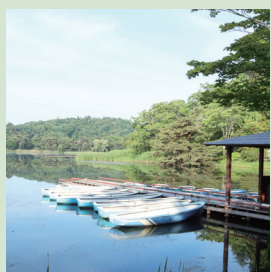
南湖では、昭和30年代から40年代頃まで5月にボートレース大会と子ども釣大会、8月に花火大会と灯笼流しを行っていました。冬には厚い氷が張り、スケートができました。

家族だけで乗れるというのが理由でした。南湖が、家族の絆を深める一助になっていたんだと感じました。

翠楽苑の場所には、南湖球場があり、会社の運動会、消防の検閲、小中学校の遠足や写生会などが行われていました。また、大学の野球部が合宿を行っていました。南湖は、子どもから大人までたくさんの人々が集まる場所でした。

時代とともに変わること大切ですが、南湖の魅力は、憩いの場として変わらないところかなと思います。いろいろな方が気兼ねなく来られて、来た方の思い出に残る場所であり続けて欲しいですね。

コロナ禍では、お客さんは減ってしまいましたが、意外にボートの利用は増えました。



国史跡名勝指定100周年記念特別企画展

南湖公園ものがたり

— 白河にうけつがれた共楽の園地 —

会期 9月14日(土) ▶ 11月10日(日)

国指定から100年の節目を記念し、南湖公園の築造から現代までの歴史を振り返り、その価値を改めて見直す展覧会を開催します。どうぞご来場ください。

- 時間 午前9時～午後5時 ※入館は午後4時30分まで
- 会場 小峰城歴史館（郭内1-73 城山公園内）
- 休館日 毎週月曜日
- ※ 9月16日(祝)・23日(月)、10月14日(祝)、11月4日(月)は開館し、翌日火曜日は休館
- 入館料 ▷一般 300円（団体250円）
▷小中高生・障がい者 100円（団体50円）

会期中のイベント

《展示解説会》

- 期日 9月14日(土)・22日(祝)、10月12日(土)、11月10日(日)
- 時間 午前11時、午後2時からの2回（各40分程度）
- ※ 9月14日(土)は午後2時からの1回のみ
- 参加料 無料 ※入館券が必要

《関連講演会（市立図書館郷土講演会）》

- 日時 10月5日(土)／午後1時30分
- 講師 本中 眞氏（奈良文化財研究所所長）
- 会場 市立図書館りぶらん
- 入場料 無料 ※申し込み不要

《現地説明会「学芸員と歩く南湖公園」》

- 期日 11月3日(祝)（予定）
- ※ 内容、申し込み方法など詳細は、広報しらかわ10月号や展覧会チラシなどでお知らせします。

文化財課 ☎2310

大正時代の南湖のすがた



▲榮翁公遺蹟南湖公園十七景図（小室翠雲原画）

昭和初期の南湖公園実測図



▲西白河郡白河町南湖公園実測図

今井珠泉画伯が描いた春の風景



▲蘭（南湖公園）(昭和63年〈1988〉)

写真で見る南湖の歴史



南湖、あの頃と今

大正から昭和初期の絵はがきの写真と現在の様子を比較しました。

常盤清水



錦の岡共楽亭



関の湖風月の松



湖上より月待山を望む



「しらかわデジタルミュージアム」では、南湖公園の昔の写真絵はがきなど、歴史民俗資料館、小峰城歴史館の収蔵資料を検索、閲覧できます。 「しらかわデジタルミュージアム」はこちら▲



スケート遊び(昭和中期頃)



(鈴木茂氏撮影・鈴木良和氏寄贈)

お花見(昭和54年(1979)頃)



遠足(昭和57年(1982)頃)



ジュンサイ採り(昭和62年(1987)頃)



消防団検閲(昭和63年(1988)頃)

